

◆ 黒星病 ◆

発芽前に石灰硫黄合剤10倍液を散布し、発芽後開花直前まではオキシラン水和剤 500倍を2回散布して初期の発病を抑える。開花直前（4月中旬）および落花直後（4月下旬）にはDMI 剤（下表参照）のいずれかをチオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブルの500倍に加用して散布する。5月上旬～中旬にはユニックス顆粒水和剤47 2,000倍、チオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブルの500倍、デランフロアブル 1,000倍のいずれかを7日ごとに散布する。5月下旬以降は梅雨期とも重なり輪紋病など他病害との同時防除を考慮する必要がある、オキシラン水和剤 500倍、キャプレート水和剤600倍、オーソサイド水和剤80 600倍、ベルコート水和剤1,000倍、ナリアWDG2,000倍のいずれかを10日ごとに梅雨明けまでの7月下旬頃まで散布する。

梅雨が長引き、収穫前の果実発病が予想される場合には、7月中旬にアミスター10フロアブル 1,000倍または輪紋病を対象にストロビードライフロアブル 2,000倍のいずれかを散布する。また、7月下旬にはベルコート水和剤1,000倍、8月上旬の散布では DMI 剤から収穫前日数が短く、葉斑が収穫果に残りにくい薬剤としてアンビルフロアブル1,000倍、インダーフロアブル5,000倍、オンリーワンフロアブル2,000倍のいずれかを選んで予防散布する。

さらに9月の‘幸水’収穫直後にはトリフミン水和剤3,000倍またはフルーツセイバー3,000倍またはカナメフロアブル 4,000倍のいずれかを散布する。9月下旬から10月下旬の落葉前にはオーソサイド水和剤600倍を使用するとほ場内の越冬伝染源密度低下に有効である。

ところで、DMI 剤、SDHI 剤は本病防除に有効な薬剤の系統であるが薬剤耐性菌出現リスクがあるのでそれぞれ同一系統薬剤は粘2回以内の使用にとどめるようにする。また、オーソサイド水和剤80やオキシラン水和剤の有効成分であるキャプタンの総使用回数はナシにおいて年9回であるので前年の収穫後から当年の収穫時までの合計使用回数に留意すること。

表 黒星病を対象にした DMI 剤の使い方

薬剤名	使用濃度(倍)
アンビルフロアブル	<u>1,000</u> ～2,000
インダーフロアブル	<u>5,000</u> ～12,000
オーシャイン水和剤	3,000～ <u>4,000</u>
オンリーワンフロアブル	<u>2,000</u> ～4,000
サルバトーレ ME	3,000
サンリット水和剤	2,000～ <u>4,000</u>
スコア顆粒水和剤	<u>3,000</u> (2,000～4,000)
トリフミン水和剤	2,000～ <u>3,000</u>
ラリー水和剤	2,000～ <u>3,000</u>

アンダーラインの濃度は黒星病を防除する際の使用濃度